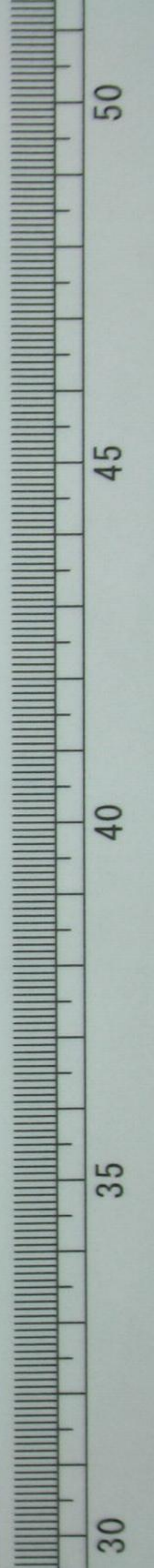
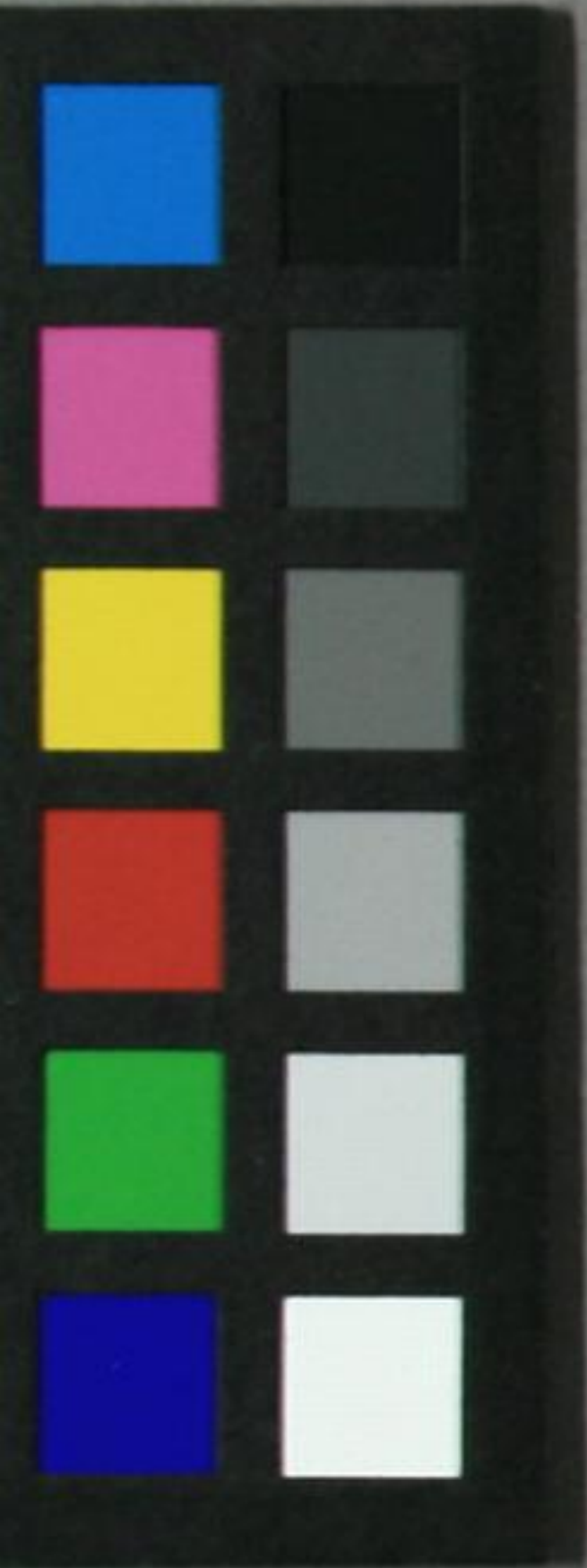


小精廬日誌

昭和三年
十二月以降

特別
14
1919
605



不精廬日記

昭和三年十二月六日



十二月

一日

昨夜和風吹雪大改も来り泊り
 西代屋も光のユート持巻、丹美、宗吉に
 春城、中津を郵送、今朝内子光を伴て
 京都に赴かん、早朝を旅装を
 内子光境へ今初め、関西に赴く

とき時身回りお拍十数踏と踏め恰も
膝もと膝ふこととき膝ふをちり一笑す
九時三十分の特急に乗んを九時停を
踏こり指内の古店を憩草二種を
踏ふ七車中無聊と老りの具とるす
畫の汽車一を所くも此かをゆ子
の為特に畫りし函館る道中今を二午
候と志すら三時廿五分渡名湖を二五時
表古をた七時四十七分京都に着
直二大文字を投す

榎原製

二日 日

今朝六時の谷村一を中馬路とのあああ一
日の清おを試ふんとをゆ子娘をも連ん見自
動車と知り先づ北の若廟を訪り、此年
史記あきんり寝る飯こ入つて長靴まき中
北の像を修る好をあり、樂富の納めは
當て大隈侯兄と感概を起し、この也か
清の納めは鏡に清武四の納めは鏡を
見ふ共に北の浦に日本の地圖を刻す、
の先れ、清のあり、初めを録し、

北望冬、法中み打の友人太田虹村東海内の考
め事、かへり、打連のてめ心寺を詠ふ、修久
洞象山の墓を玩して後、壽聖を改、入介
石田三成の墓を展す、願ふ小形のこころ、
院と入介三成の位牌、と見る左の刻字、
り表、江東院殿正由因公大願堂門、裏
慶長五年庚子十月二日治郡少輔三成
此寺三成の菩提寺と記す。自動車、いまも
進んが、名山、向ふ途上太恭を過き、日活の
撮影所、入介院、流るる谷、打比、社、の重

榎原製

後、さうらき社、貞節、空に、あまのこ、撮影
法、後、法、さうら、く、大、祝、換、さう、偶、と、塚、寺
土、依、十、六、士、切、版、の、家、を、攝、影、し、つ、て、あ、る
活、動、の、先、物、と、喜、ぶ、小、道、り、を、を、ま、し
食、事、車、ら、入、道、し、て、去、つ、て、山、向、の、時
既、二、十、二、時、を、三、十、分、程、迄、キ、ホ、ッ、ク、時、刻、列
ふ、船、を、候、ふ、と、あ、し、く、上、流、に、潮、り、分、り、空、を
賞、す、お、美、景、恰、も、子、兄、吹、也、花、の、危、と、云、ふ、墓
危、に、飲、食、す、酒、七、下、物、七、皿、也、從、法、院、を
考、し、又、自、動、車、一、を、起、り、大、覺、寺、に、車、を

駐めを入つて一説に此寺皇宮と関係深きか
 あり神大興の折柄此寺を訪ふことの多し
 智識階級の人果て清浄を多く認めらる。井
 動車中の人とて疾馳三尾に向ふ、其處の
 名即此とあり、時雨也、其の幽寂の境を味見
 とす、雨も時雨也、時雨也、時雨也、四時
 を過ぐ、高尾、樫尾の階を擡ぐことを刻
 意して、榎尾に到り、高山寺を訪ふ、往年
 亡父と三尾を訪ひし折りも雨降り高山寺に
 入らざりしを憶ふことなきを悲し記す、此寺に

榎原製

五十年前の建梁物蓋あり、其の古を
 憶ふべきも、秋夜あり、其の境の幽寂
 に在り、溪川に架す、朱橋寺の前の段路、
 虎堂の前の横の大きな石階、味あふ、入る
 茶を喫す、主佛不坐すと、寶物を見る、法
 寺、其の雨聲を味ふ、時を移す、五時
 去つて、内金に就き、雲堂に就き、其の
 て、お打たぬ、別れを七時、旅舎に宿る

三日

雨、今朝早もとは谷町より帰る。今日の日は田舎
波大今初日。つき九時半。今時才三高寺
寺、板道徳館に到り、今儀に列す。二十五年
勤儀の故員九名を志彰出席。二十
敷名、午時のとき、下村大丸女将を招き、入杯儀
。午時の儀をなさく、下村高の父丹持を
第一支拂。七回席、第一の内子、初時の友人
也。午前中、内子をえとは、あて大丸に列り、是
服を辨ふ。今夜六時、祇園中村、梅に協会の
のほ、儀員と共、京都、今更に招き、え席と

榎原製

海、今更中、高山寺の僧土、坐して、今更
敷、今更内子と、候ふ。京都、おあす

聖元天皇

遠方の山、もよもよ、雲、もよもよ、白きと、見たり、川の

大原の

田原村

川の

め、やめ、せ、目、の、げ、の、高、木、子、く、め、せ

か、へ、こ、さ、速、く、大、原、の、ま、ま、日

め、づ、く、く、あ、ぬ、く、川、原、の、初、め、を

いつ、も、さ、ら、さ、る、布、か、と、を、る、し

唐、崎、の、招、い、扇、の、か、る、あ、ら、ん、西、の

漕ぎ行く舟の墨色をうらみ

清女の紙の三すじの白紙を 景祐

吹き来り風を 合とけり

柴の庵ときくハ院（ま）名らんとも 西

世にこのち（ま）けい（ま）り（ま）り（ま）

ぬ林寺

あつとこの軒の板石を若むしと

思ひしをい洩らぬ月のか

湖に乘りて京都名不記を讀みちる長のかげ
とあり。

四日

快晴、あつ同寺飯大寺を遊ばりてゆきと
為の日記不見物、一日を長くとんと九時自轉車
を働かし、三十三間堂と西大寺、清女を祀りてハ
改神社、田山公園、皆思院、南禅寺を歴遊
し、各木の分枝を玩び、清女を祀るを嬉し
み、竈亭に入、飯あり、竈亭の割道、余の愛
する不家族と飲茶をこし、入真なるい、家史
に傳ふべきことあり、殊に物史をいふ、今後
亦自轉車を廻り、皇國神社と訪りて

雪櫃、信遠、身、紫、居、岸、偶、仙、橋、変、梅、
簾、漱、枕、長、迴、粹、廊、丹、楓、活、の、目、
り、市、中、の、あり、と、思、う、ん、と、巡、遊、境、を、
下、打、み、打、鈴、を、く、近、物、の、葉、子、を、贈、り、亦、新、
京、極、に、教、東、家、苞、を、贈、り、又、錦、小、路、の、マ、
ツト、を、お、と、魚、乾、野、菜、の、五、都、に、魚、さ、め、
を、獲、り、魚、つ、り、入、り、七、日、祀、物、車、と、決、り、獲、
台、笑、か、を、贈、り、

二の

榎原製

時、この回、昔、故、郷、を、団、体、と、自、家、甚、大、典、の、ま、と、
を、拜、観、し、る、の、り、と、五、時、も、起、き、自、動、車、を、
鈴、掛、つ、り、行、き、団、体、ニ、ち、數、十、名、と、合、し、ハ、
時、も、或、多、の、団、体、或、若、の、人、と、合、し、徐、々、復、
訪、の、こ、し、行、進、形、成、つ、り、今、均、一、時、ら、
し、て、如、め、を、祭、に、展、願、の、と、存、す、る、ま、ん、と、と、大、
礼、の、つ、き、新、り、を、設、け、し、る、等、中、也、物、と、道、寸、
の、え、教、丁、を、お、し、と、細、心、の、意、場、を、お、教、す、
こ、い、う、と、思、ふ、所、な、り、北、日、の、あ、り、る、主、基、徳、甚、
の、民、似、岸、風、を、ち、り、前、而、り、の、舞、甚、

あり、壯觀目を駭かす、是れとて大講堂を拜
祝す、若しとて、里相送るを賢朴の味捕
まじし、緩歩二時百お親泊り、瑞石前、
自郵車と御を、修号院に向ふ、物お、
お親許可有、余、二條城柱の離書を前
年お親し、とて、此離書、未比お親を和
笑、保、好、樹を公、此、一行、延、幸の、為、め
永く待つと、殿、此、打、角、門、内、入、り、さ、る、と、刻
爰と、附近の山端の、木、八、に、刻、り、酒、心、有、
こ、こ、之、母、の、二、十、数、年、振、り、を、其、子、を、若

榛原製

こ、衣、物、を、着、る、野、故、さ、る、可、き、う、南、世、向、り
爰、化、一、の、名、刻、書、一、の、名、賞、す、る、と、是、る、
一時、先、旅、舎、へ、歸、り、下、村、家、へ、使、を、以、つ、て
春、城、中、語、葉、子、三、果、又、鳥、と、礼、を、為、給、送
る、又、以、村、一、方、へ、換、揚、の、首、の、子、を、送
る、二、家、へ、礼、状、を、送、る、

修号院離書、地味八万四千四百三十五坪の大
規模の庭園也、及び、皇の上、皇の、為、め、徳、川、氏
の、若、生、に、傳、る、徳、川、孝、忠、の、女、和、子、(京、福、院
の、出、づ、り、明、心、天、皇、即、位、あ、ら、せ、ん、と、す、こ、の、事)

上皇の歡喜を慰めをんを奉るに此奉
あり、離宮の三所のお屋敷あり、上のお屋
敷のふち廣大なり、地勢高く眺見をよし
浴池に湯水と造り、階宇も窮家造り
木の建物あり、園内柳樹多し、風景
甚に佳也、槐記に「地盤山を造りて
庭雖形出来て、草木をほしめ踏石
捨石にありて、皆をみく土を形とし
しく、草所を置て見て、恰如のよき如し、
是はし」とあり、上皇御自身も近こ遊

榎原製

せん也、靈元光格二上皇の時大いに修理
せり、今も有りてある

大田紅村より未だ大丸具殿代二る、由三々
拂納六時都木テルに赴き、園寺飯大合の
鯉親命に臨み、新本能寺を祈め

七日

晴、午後九時、夕暮を待て、と祈らんを自
動車を籠り、まあ社を拜し、而若
高附道の坊に、書を記し、お祈り人病

此に就て詠し、研七、沼澤寺を訪ひ、辛酉
のら自新車をせし、あの子をかくるに
余、同者、海からるるの、命、今、列し
多時山中、越と、植松を、拉し、田山の鳥岩
に、酒飲し、三人お、指の、て、府、同者、筑、地
向、級、長を、河、を、此、向の、湖、れを、改、く、由
統、を、く、何、く、各、所、を、此、同、者、を、詠、え、其
敷、多、し、太、田、軒、村を、訪、め、て、古、客、を、山、陽、の
遺、研、ま、と、え、ら、し、若、者、春、日、階、尾、橋、外
に、南、行、記、と、詠、く、志、だ、く、初、の、道、に

榎原製

此、少、し、余、か、詠、余、に、未、り、出、身、時、月、日、也、
而、余、も、も、春、城、著、り、詠、を、詠、る、八、時、二十
分、出、身、太、田、軒、村、正、大、ら、し、夫、人、傳、車、坊
に、見、え、し、り、に、来、り、車、中、軒、村、出、傳、士、の、女
行、に、余、ま、と、ん、く、今、次、の、危、行、終、る、端
東、花、入、者、物、ハ、る、田、内、ニ、る、田、其、時、代、也

八日

明、八、時、二十、分、在、身、着、直、に、家、に、ゆ、く、
不在、中、別、業、の、考、状、堆、積、中、に、身、由、早

とるしとて、巻不書表紙成す。

九日

日

晴、早稲米の定額書舞の紙を身取外宛
債教書(返)書を出す。吉山大隈邸への朝生
訪を約す。北沢邸へ新書郵。揮毫一枚送
る。台湾中柄純二、帯一を送る。山田吉心本
後、光と母名誕生。夜、米出。午後、七時
君、大隈家別邸を早稲米の紙を贈る。去る。
多分の修記を早くする。(一七)工代、六十三日仕

榎原製

拂、午後揮毫、詩と移す。

十日

晴、森脇田村協会の件、(一七)未振、十時印刷分地
の重設會、歸る。午後、徳今の提案を評決
す。午後三時吉心、大隈邸を訪問。板紙改訂
委員会の経過を報告す。京都龍太寺へ云々
一巻、秋利達、六次成版、二冊到来。出版部
より印刷紙奉

十一日

時、京都新村に公村一あり、「以流戊辰」冬一
 冊と郵送す。比田の紀念に印刷進の件に
 つき、本誌三巻に改上は、花鳥の注射を施
 す、京都新村に「来」出勝を喜代松
 とし、木炭三俵贈り、来、河井、松、後と流
 場の「も」と揃、九時、守出、改部、到り、香
 田と流す、十時、も、株主、総会をひらき、本誌、能
 南二割と揃、決し、定款、を、流す、改訂を、能
 六、午後、役員、会を、開き、行、打、理、を、行、任、後
 二、週、の、注、取、の、事、を、詳、決、す、本、誌、余、の

榎原製

受、け、つ、配、由、二、千、百、七、十、五、圓、費、其、金、額
 十、圓、也、改、訂、金、額、十、五、百、圓、也、掛、酒、五
 時、邊、の、所、の、借、出、金、二、千、百、圓、武、部、の、九
 秩、を、壽、す、者、の、因、り、今、改、訂、代、更、の、事、を
 状、を、呈、す、流、を、注、射、を、出、す、今、出、改
 部、の、今、改、訂、金、額、三、千、百、圓、注、射、の、事、を
 来、年、夏、中、廿、日、二十、部、の、増、資、の、事、を
 内、流、す、久、米、部、を、振、き、り、席、上、ま、田、部、に、改、訂、が
 日、韓、古、史、断、を、上、段、の、前、部、に、新、し、く、流、す、
 實、と、後、流、の、名、を、以、り、田、部、の、改、訂、の、史

海の謀を後妻は多し、揚哉の以久未だも
示さんる文書を一見して殆んど語記を
を河津中より多くも、海勢を歎やうとを
う、此是に列し、名者、海井九馬三城、海
本有海河具大木林是、中一其紀、帝大
面より三四早大方、雨より高田、海
泥坂を中、外、教名、高田と校、
を内、海

十二日

一天雪を催す十時早大登校、校規の

榎原製

今に臨む、本日成案の、
の果、海、若干の終止を、
此を告ぐ、午後、海、
の、海、海、海、
約と議し、余、今、
別、今、の、
出、海、
部、海、
兼、海、
山、海、

日流戊辰を物と

十三日

明、聖上上院、臨幸、關部の民庶、懽呼奉
迎、海濱社も、謝書、列の、恭に、禮記三部、寄る也、
之の、重院、早、素、往、油、難に、行、流、之、木、林、跡、是
木田村を、自、郵、之、今、之、程、に、由、激、位、向、本、年
を、却、校、け、る、為、由、二、千、圓、の、金、を、余、之、一、時、繰
替、へ、の、こ、こ、し、一、事、一、敷、一、般、敷、に、地、法、の、命、め、七、協、議
す、こ、こ、し、一、事、一、武、田、尾、末、出、改、部、の、要、件、と

榎原製

帯山、早、流、市、崎、琢、送、出、京、と、報、す、早、病、四、大
之、も、も、校、視、ある、一、つ、も、来、書、干、後、田、と、得、七
院、跡、を、著、す、五、時、の、事、に、校、に、列、す、早、大、經
持、負、中、の、若、干、名、を、會、し、校、視、に、つ、き、余、よ
り、委、負、今、の、程、に、を、報、し、ある、一、つ、も、其、の、諒
解、を、求、む、事、由、四、中、一、の、南、島、七、出、席、し、
本、院、寺、大、公、光、演、出、の、補、刊、を、福、井、山、内、通、一
郎、も、も、来、山、且、の、物、を、贈、り、し、歴、史、回、行、亦、七
輯、配、本、と、交、へ、

十四日

時、行打中江成一、日、中四、物、毛、利、名、考
才、院、路、市、政、制、済、会、寺、一、件、一、七、
未、決、成、の、午、後、お、家、を、訪、れ、こ、と、を、約、す、機
井、春、命、も、其、若、成、而、史、記、を、定、め、未、だ、院
給、を、奉、り、す、古、其、路、桂、吹、り、こ、し、魁、の、塩、引
と、賜、り、来、り、午、後、半、濃、未、林、村、給、の、五、千、田、約
手、切、込、こ、の、き、更、も、六、十、の、間、割、引、額、入、り、
割、引、額、五、十、四、田、也、早、大、も、早、考、の、機
抄、こ、も、四、割、り、来、り、早、考、の、機、引、田、上
る、田、交、付、午、後、光、七、時、名、出、路、拜、樂、す、る

榎原製

映畫を見、竹芝、二、館、も、切、り、出、代、五、元、分、
り、来、り、

十五。

而、相、来、能、候、を、考、へ、す、ま、の、路、横、井、山、田、通、一、
、測、地、を、考、へ、山、田、海、能、身、給、候、を、賜、ら、る、
云、電、報、河、傍、道、造、り、美、望、の、り、也、山、田、と、
七、執、儀、く、郵、先、也、し、も、山、田、三、三、と、柳、
湾、の、形、相、を、給、り、印、代、九、金、三、十、田、は、揚、子、
十一、時、山、田、部、に、到、り、研、究、に、賞、を、賜、り、午、後

神道書何宗家迄三軒と市原塚迄と相と
神倉寺別荘と内儀し、三時半家三坊
へ、谷村一天の中へも来山、余も其國也
早朝市原拂の由、由子と海まで、雑草を筆
し、七夜に入ると、夜は長し

十一日

向ぬ、市原拂、市原の必款の拙意も、数家交
什、三の藩の運、越し、爲三、座す、錦光山字、
衛、遠、先、先、才、井、上、貞、と、他、并、惟、二、未、指、陽

榎原製

菅籾の香櫃を貯る、大坂、林儀、三、中、と、清
物を貯る、未、二、今日、一、橋、大、各、時、代、の、日、宗
教、人、と、高、田、の、四、府、津、別、荘、に、祝、う、る、午、後、一
時、二十、分、の、汽、車、に、こ、こ、者、を、先、り、先、を、休、め、
買、物、を、果、す、こ、こ、先、二、時、迄、こ、こ、家、を、出、び、
生、に、到、り、停、車、場、合、本、に、致、し、終、に、汽、車
三、八、分、休、息、三、三、三、之、方、宮、平、丁、原、田、鎮、流、石、湯
毎、一、石、川、千、代、松、七、八、に、車、中、に、入、り、未、時、
今、日、祝、を、受、け、る、日、也、車、中、款、時、時、の、物
と、と、祝、を、受、け、る、日、也、車、中、款、時、時、の、物

砂山雅政為津利を古方より古く来着
一室九人淡路を去り此に改名中言
去りをも取き河守より八時四十五分
と山程：孰く十一時家へ帰る。今月八
太田虹村より来者、昆白楠瀬より物を
贈り来た。

十七日

昨、田中徳頼校親洲越二のき舟泊内淡も
遂く、森脇並木田村より、又の方流行つた
りの件、二のき舟時帰環。金と千圓余の

榎原製

えとと繰繰交付、更と数の中を午の保互
の約と為す、京都下村西下中多あり西を船
の、午後船保を寄す、小米儀の中、おとを
す、如人の為、二度し十数家、押し是、井
書、原、色、軍、日、奉、の、こ、結、す。

十八日

昨、池の今期凍結、新雪出版部、八人等、東海堂
来、梅、柏、と、船、も、西、保、子、米、壽、祝、の、人、を、以、念
銀、河、来、と、高、田、分、家、来、り、贈、り、廿、日、海

義内革の件二つきち村医再返、出收
 部とて河田の河島研文に禁紙本、比
 田文治中、紀念録の表紙と押、直毛
 小林望三、送る、新書出、或者午後又
 五更頃押直毛、石印元花、瑞寺、振本丸、印瓦集
 古と送り来る、飯後丹共、廿迄と頼、五
 村上産塩川三尾、利達、市山琢生、の空
 二、五、押直毛、教紙郵便に托す、田代亮、の
 奥田雲、抱、多、物を焼、未、二、今、律、一、大、
 田虹、村、二、五、枚、と、出、る、五、高、橋、義、助、丹

榎原製

黒原平一、考、致、五、枚、也、

十九日

成、成、毛、利、宜、彦、房、に、原、稿、を、郵、送、し、又、料、紙、朝
 鳴、着、美、人、物、を、持、来、細、川、信、夫、来、日、其、依
 頼、の、金、葉、二、余、の、押、直、毛、二、枚、返、す、市、山、琢
 送、二、余、の、押、直、毛、教、紙、投、郵、例、年、の、通、り
 飯、後、塩、川、三、尾、吉、山、大、隈、一、送、る、山、中、好、内、向
 武、一、の、押、直、毛、一、押、直、毛、教、紙、田、中、物、持、頼
 子、結、婚、投、郵、一、月、十、四、日、市、田、五、三、九、市、山、琢、生、の、校、刊

午後散策、本郷にシヤワの人形と熊の十
三因抄、文行巻とゆき宇田川榛原日記を
代筆の由り因抄、今津八二らし瓦屋松
本はふきを照り集む

二十日

時、相吹英二の傳記刊来、武田屋吉出版部刊
このき、森岡田村文の書院の件このき、未編、前
橋者義の訃刊、十時印刷舎紀、刊、社費
に賞を授く、玉井貞大らの訃刊、刊、社費

榛原製

日原尾に叙し、上野美術校の原宋元の
素画、橋本武利と元、志、尾、物、記、耐、奴
活、物、性、成、今、津、八、二、未、考、増、田、義、一
し、廿、二、日、松、石、武、利、の

二十一日

時、田中穂積校記、このき、理、子、命、の、結、果、を、報
告、の、為、り、了、上、弘、部、子、の、注、射、を、施、す、
結、核、を、養、す、午、後、集、族、合、談、文、明、協、会
の、例、會、を、い、ら、く、部、業、の、編、纂、梶、原、仲、法、會

聖子夜に就き燈籠先第一バテジルに柱けり日本
人の現状につき古の万海濱夜にうづらま真
の典二もも梨果老画を贈りて、夜泣相吹笑
二位と復り、在来市令解散

廿二日

破山田浦吉に出陣用、つき未梅村山麓
しよま者并比行と寄り来り、新派と寄
す山崎勉、現塚本河身訪、十時迄を待た
て、外出者、美、信、乐、部、二、三、回、者、と、贈、り、
丸、美、者、店、二、禮、者、と、贈、り、美、り、七、紙、生、と、散

榎原製

栗州系、昔今、二、年、終、中、坊、内、大、西、二、分、
午後河津、安、後、島、梅、高、梅、義、者、下、
り、来、者、寺、崎、元、を、其、坊、者、毎、の、柏、漬、と
贈、り、二、前、梅、者、義、者、送、け、梅、物、を、贈、り、
玉、井、六、大、り、死、云、二、付、吊、物、を、贈、り、

二十三日

日

破寺崎元、重、未、派、送、け、堀、口、大、島、一、身、坊、中、時
召、派、す、余、の、著、論、話、の、河、留、研、究、集
を、贈、り、此、世、多、肉、身、の、終、り、来、り、物、を、贈、り、

午後閑をゆり松原を兼り、文三郎の来り、先
に伴うを改築の武蔵の師に映畫にす、
この夜も兼るに候す

二十四日

晴、海邊に或の舟あり、舟の輪に時を移す、
坂口田舎未三人舟の山石合板川を船に
舟を供し、舟にのり、舟にのり、舟にのり
舟にのり、舟にのり、舟にのり、舟にのり
武蔵に轉るす、市山原あり、舟にのり、舟にのり

リ来り、午後閑を得て、龍谷を兼り、丹兵
原平も味を指し、兼る。元、舟にのり、舟にのり
舟にのり、舟にのり、舟にのり、舟にのり
舟にのり、舟にのり、舟にのり、舟にのり
舟にのり、舟にのり、舟にのり、舟にのり

二十五日

晴、田村兼二、舟にのり、舟にのり、舟にのり、舟にのり
舟にのり、舟にのり、舟にのり、舟にのり
舟にのり、舟にのり、舟にのり、舟にのり
舟にのり、舟にのり、舟にのり、舟にのり
舟にのり、舟にのり、舟にのり、舟にのり

二十五支也。其金銀千二百九十一兩六
十六匁。増四匁。と校刻の未申。今、既
道に報せし。十一時出。故部。利り。茶
鼠力。外交。神。者。編。其。二。則。像。有。諸
員。七。令。し。油。轉。進。行。と。開。す。る。花。飯。の
打。合。を。与。し。時。を。移。す。四。時。お。多。少。飯
に。別。り。日。出。部。刷。の。重。役。并。に。今。代。轉
部。員。と。安。合。を。以。ら。く。席。上。又。江
吉。田。と。文。的。者。既。の。行。法。を。執。り。由。議。す。
池。田。龍。一。七。由。結。婚。技。霞。の。安。合。一。月。十

榎原製

三日。幸。由。木。三。元。三。根。之。大。隈。房。其。他。も
早。前。の。路。品。あり

林六日

昨。例。年。の。通。り。就。族。并。に。以。人。教。家。の。乾。海。甚
を。為。是。也。又。四。代。亮。人。も。好。由。依。頼。の。良。也。免
孫。の。像。別。年。代。重。捕。滿。十。時。外。出。時。池。田
行。と。別。り。六。切。年。丁。重。更。又。一。二。折。を。婚。心
物。等。の。致。可。昇。又。病。色。し。重。三。の。四
家。同。の。子。海。二。百。日。品。と。老。年。三。十。四

文三二... 田中... 投... 日... 文... 武... 尾... 吉... 出... 部... 山... 崎... 勲... 派... 身... 上... の... 子...
... 後... 月... と... 歸... 来... の... 為... 命... 昌... 三... の... 来... 日... 始...
... 品... 也... 且... 丹... 其... 原... 平... 之... 来... 河... 古... 之... 者... を... 投...
... 寸... 由... 村... 在... 二... 中... 之... 余... 物... 其... 之... の... 額... 而... 以... 立... 物... 故...
... 成... を... 其... 矣...

二十七日

成田村... 在... 二... 中... 之... 森... 昭... 美... 村... 来... の... 文... の... 考... 故... 行...
... 詰... の... 余... 之... 也... 日... 融... 也... 七... 一... 家... 今... 日...

榎原製

文三二... 田中... 投... 日... 文... 武... 尾... 吉... 出... 部... 山... 崎... 勲... 派... 身... 上... の... 子...
... 後... 月... と... 歸... 来... の... 為... 命... 昌... 三... の... 来... 日... 始...
... 品... 也... 且... 丹... 其... 原... 平... 之... 来... 河... 古... 之... 者... を... 投...
... 寸... 由... 村... 在... 二... 中... 之... 余... 物... 其... 之... の... 額... 而... 以... 立... 物... 故...
... 成... を... 其... 矣...

二十八日

所、西村三次の書名集の文化史的研究を
讀む人も働くと餅を揚ぐ、雅好を草す、
植木屋のまゝ松、防雪の手配を為す、
善次郎の遺書、友人の奉命日記四冊、
文行書を活字を若干の田舎婦人、
松尾忠孝の遺書、丸心、
回り二三の物を、
しし物、
阪部藏、
寺部大子

榎原製

榎木増次郎の遺書、
ふとんと、
二枚出末、
山手、
榎木間

二十九日

所、西村の遺書、
り、
一月十九日、
内と、
細工代、
田村山、
新島、

蘇考店兼、高橋大洋と物と船来
ふ、出帆部もまに香松の南次郎の定と配本
出帆先の考め、日記を口説、物を船中
共傳、事柄、分中、に飲す、口暖、まゝ、も、凡
列、伝、く、す、し、ゆ、う、新、報、を、あ、り、し、時、を、後
す、市、崎、琢、花、も、塩、引、利、来

三十日

成、萬、山、寺、と、す、も、あ、り、印、代、三、十、四、拂、内、去、以
の、西、次、郎、の、去、を、後、あ、り、本、比、塩、引、利、を、兼、す、り、病、心

榎原製

の、為、物、に、坂、上、を、迎、め、市、崎、琢、花、村、山、林、清、く、
り、来、り、間、山、田、崎、也、寺、を、復、知、り、本、并、未、刊、考、也
草、百、種、配、本、三、本、武、主、吉、田、在、洋、生、物、柳、子
ふ、贈、品、も、受、く、伊、原、輔、利、本、物、を、贈、り、
答、へ、直、次、官、邸、宛、り、す、り、も、始、り、列、の、先、を
付、け、お、申、上、改、帳、生、に、迎、年、も、案、の、り、を、將、出
し、ゆ、う、志、き、い、り、り、年、考、各、品、を、贈、り、あ、り、し、一、と、候
す、り、い、し、皇、も、あ、り、り、り、守、り、候、家、う、案、刻、中、為、心
容、件、も、あ、り、り、り、混、雑、を、極、志、

三十一日

町相見旅帳を寄し七十と記す所感も
あま田中吉山の方枕とあり村山祐四
郎包もあらず、又江津のまゝ文の所既の在
未だ二つき法す、け平年平の幸法を
一物と記すも、家々の市中と見えも
を付の玉出たおせと物を指し味美に
七ゆき、市中に麻袋不景氣あり、主る
ゆみ、交付年主仕拂の為えんを千五
百り村山島船二とと投り、山崎勉法よ

榎原製

り集書、小文以年一、る来書、西政部も、種
村、あ、記念として贈るべき大久保公の書物
も、小久江も又七、老いも。夜、又、各、各、方面
の活動定まると、井沼、例の如く、除夜の宴を
いらさ、昭和戊辰をえ、つと、死、六十九、歳、ハ
ことと、さ、例の如く、巻尾、二、年、の、紀、要
を、編、載、す、

A blank ledger page with a blue border and 12 vertical columns. On the left edge, there is a blue decorative element and a small blue circle.

A blank ledger page with a blue border and 12 vertical columns. On the right edge, there is a blue decorative element and a small blue circle. A small square stamp is located at the bottom left of the page.

榎原製

以下
9丁
白紙

歳尾一年中較ニ重富り多クと稱せられたり

一 歳端例の如く、北海にほゆるを以て一泊の上田村久寛の公荘を治めを以て

一 四府津に於ける高田の別荘に、坪内と名を三人活動會との材料とす、早稲田の三三と

一 二月下旬の如く、早大出版部が空海園也

と

一 二月内子病及び二月病者多しと云

一 余の久しく公事多し故に公事より記念品として
 書架を贈る。臨去するに右二つを洋風
 架二個止む。其の意は二月上旬出来居
 室の次の方より長く、内一個既共小名を
 置くの棚とする。外一個かゝるの棚に
 文字の大書架を贈る。家老の印を
 入る。奉る。おおく。

一 又の書架は若田雖も。毎月の教
 材を辞し且つ一時二ヶ月之旨支出
 あり

榎原製

一 二月二日好ゆも。遠征記念演劇。物段
 の地盤祭を行ひ併せて靴工
 一 教壇の音書。一切をあらう。三枚打原
 一 風一双を乞ふ。

一 二月上旬日清印刷會社。信額増資
 を内決す。

一 二月九日大隈會館。二級修會。資金に
 對する謝恩會をひく。記念品を贈
 る。書架の。その前にあり。此價約五
 四。金。二。四。十。五。の。額。を。成。す。

一 鷗助旋交と題する法之帳四冊を乞
 二 終りて又安の反不皆此由に収まる
 一 大正印舎の請に應りて家花の各刻印三
 十数顆を陣列展覧に供す
 一 二月末隨筆中日略に纏まるるもの
 一 筆を要し宛稱をせし
 一 家前に花壇を修す
 一 報知社に浮世存長説を乞ふ
 一 今有金書の評議乞に托せん教次
 分と伝ふ

榎原製

一 旋徳昨希の初に及し如きの体験一篇
 一 漢説瓊瑤一篇を乞ふ
 一 四月十五日の同書發協舎に於て金顧問に推
 一 七、顧問の最印者に對する優遇也
 一 仰友上野妻永次の北城義民像に序
 一 文を乞ふ
 一 文の協舎に成底追徳舎を目論む
 一 高松の校友今に伝ふ、(席余)京都に
 一 也ふ
 一 四月廿五日の信印創舎社の臨時株主信

今に信願増資決す

一 中野梓君手録の苗畧者日誌六冊
餘の千五百冊、海儀ニ出出す

一 中野公望浄念寺の任職之経につき約
議起り全○字・家の為め、翰旋、宗家
と互ひに敷し往来す

一 五月廿九日報知社の浮世傳に度費令院
裁制若古高に活淑久一、同茶令に扱か
る

一 清波地々々金四十日到来

一 任及佐托々々一、免自預金ニ類し、廿季
利子二百七十圓餘也

一 昭和二年四月々々三年三月々々出版部
の印税七万三千二百圓、十八日發行

一 日清印刷増資につき六月九日、証券金
七万七千五百圓、差入株數三万十株也

一 六月末の日清印刷、各株十四圓(証券
金控除)三千五百圓拂込畢、余の所
有株數の分を合せて七万六千二百株とす
一 六月下旬迄著、既指印刷所へ回す

北陽著「春城草」終と署す

- 一 六月廿三日河内紀念演壇の發起人令を以て
と、建業演壇前よりとも催書の使者を以て
●便宜上催書を早大に納すの決意とあり
●催書を早大に納す令に之れを可未す
- 一 六月十四日文相協会二十周年紀念を以て
辰分を以てき大隈分館に式を奉じ、紀
念度免令を催し、演壇を以てき成
辰國志館を以て

- 一 梨本宮より所収「年入」給金下賜

榎原製

- 一 鶏肋雜文二集五冊を以て

- 一 堀内紀念事業の為に洋正大隈洋書
に於て演劇を行ふ五日河大入利金
五千圓以上。

- 一 報知社よりお金を以て由受てく演壇信
陳列委員の慰労あり

- 一 七月九日退演劇壇の上横式を行
ふ

- 一 余の隨筆中の文章新村出の需に依り
女子用教科書に又原井乙男の需に依り

金港を出段の教科書に掲載せる

一 余と国者被堀合の顧問に推すの漢訳を
田若吉城士公席上より（学漢語）国者
被堀合宛に送る掲載せる

一 春城軍語の巻首に捺すべき捺印
三顆楠瀬日年奏刀

一 永年長島合村所有別在也を撰る條
としし日清生年保陰合紙としし四ヶ
田傷入の受利子高歩のりきし七月十九
日迄金史より森村宛りしはし五ヶ山借

榎原製

入

一 家傳存を要する。文方表と一冊子に
添う込み家書選現紙料と署名す

一 七月十八日四府津高田別在に三人
命をひらく。高田と高崎と余存月
高崎の録に高崎を例とする。此月
物に此年あり

一 八月三日春城軍語表を成す

一 八月四日城後寺の校及令に臨る。表
城址につき城の漢訳を為す新語に用

ハリ其の校者云々：信又、由京の金次新茶
次と云々五十石風力糸、早大出波群の者
め叔礼者漏るる、信等しつゝある二三
の編輯者を訪ふ

一 講法地（？）と高橋の御金五十四兩
一 病状の略血一週百つてく、家人者後、
没致す八月十九日

一 十月節文花春秋、随筆一編を定す
一 三重料の返家西村徳太郎、山陽
新島の遺品、物続形木装、花器

榎原製

一 双と貯る、山陽の待生、江外石屋の
海軍儀の西殿刺さる、若くは石屋の
燧印をえる

一 九月四日大漫家列部を物、使を以て
侯夫人の遺志とあり、維新後豪の
方前十五石を物とる、其に二巻、今も
表装家瑞とらす

一 辻本（秀吉）のグラビヤ製工場の印
印刷と併す、在（？）其の工物を檢
らす、

一 宇田川松庵の自筆遺書十数冊を編
み價二万廿日也
一 明治戊辰と題する一冊を文政場
に推して形す。戊辰を紀念に海峽
しるし也

一 十月廿一日圖書館内万に際し、漢
書玖味とをういふに致す
一 宇田川の里鄰に譲り、其の力任せ
と以てゑを又庄川の力任せと
七探討し、宇田の枝交と今うして致す

榎原製

一 十月廿七日演場の開館式を行ふ。余
貞長とて一編の報を漢訳を
又又の報に余の所感一編を載す
一 早大幹部に内紛起り、余幹旋家理ゆつと
む

一 早大校祝の改正案を推せる。
一 西村徳大の所為一編の山陽骨董を
き、長文を考書し骨董院に納む
一 日本郵政、雜誌四本、其他二三の雑誌に
筆を寄す。

一日法印創令社の社名今年額四万圓増加
す十一月より

十二月一日内子と娘を伴ふて親芝の為の
京都に赴き名心も歴訪し神大奥の安
とを拜観し公報地書も妻を伴ふて
遠行するに之を以つて如のとき

一年又池原を山改走として日之陽紙
を此の戊辰漫紙と署し此のよの六冊成
日、これ多くは池原の材料也

一年夏以来谷所も拙毫を求むるに
多

榎原製

く往々月々百紙と押毫することあり、為
め煩々こと多し、別産家人を煩々
磨毫を兼する能はず、墨汁を必精を
毎紙吐き差す毫を精々、忽ち教板成り
一 坪内氏名流場にも多る用字の附納入
一 池の町圍のしがうこを修理す
一 名家手紙問を教心記し十巻装潢成り
一 早大出版部、幹部会と時に謝する
と如く数日間切り、今も書き出の多
紙を見る

- 一 十三年間銅養ひ等爰大死す
- 一 三四の画幅を遊ふ雪窓の二首士満庵の雪根香岩年一也二大幅也
- 一 十二月より高田半峠の保一を四府津の高田別荘に一月橋大石の時代の同定合す
- 一 本年七段上は病毎週又とより来リワク千二注射を繼續し健康を保つを得たり
- 一 昆田文治郎の記念録編輯を三六季し年末印刷略す成す
- 一 早大出版部を流るんも上下半期を二割

榎原製

の配南をあり各季二千円をのせりと金を得

一 北年玩具類かゝるを惹集るれこ上り玩具の棚四角數十張に及び的地多きも別々未履の遊戯也

一 坊内多し追紀念演劇協賛後援大を設く余分金に推せり

一 日誌印刷金地好況二月廿七日株主役員といふ事判り配南を決す
賞典金別二千三百圓を交へ

一 市立博物館、東京府美術館、京都、東京、
元々の勸業展覧会より、内務省の勸業博覧会
百五十二号、出版未嘗有の偉観、最終
日、創刊

一 文の者、近年未行、流しり余も千八百
四、融るをもあつたこと、由義をくさる。

一 各回の特徴ある。パー、パー、カウ、パーの蒐集
を如何志きく、披索するも多く得たもの
本年二十号、と勝つて得たもの

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

榎原製

